

災害に関わるアマ無線局 JA5BM 局の手記（四国地方 40 年のあゆみから）

1 台風 5 号による高知県の状況

1975 年（S50）8 月 17 日、台風 5 号が宿毛に上陸。仁淀川中流域一帯は 119 mm/H の豪雨に見舞われた。

住民生理、道路決壊、河川反乱、家屋流失、浸水数知れず交通通信は全面的ストップ。県下停電で大混乱となる。

山津波の発生した吾北、日高、伊野、越知、土佐市では 70 名を越す犠牲者、孤立した山間集落で救援を求める。交通通信が遮断された山間部の状況は台風通過後 2 日目の朝、現地のアマチュア無線家によって状況が伝えられた。

2 アマチュア無線局の活躍状況

19 日 13 時、吾北村の JA5SKQ 局から室戸 JA5DDQ 局を通じて「非常通信をアマチュア無線局」にやらせるように県対策本部に要請をする。

JA5BTJ 局、JA5IHZ 局他が電波管理局高知出張所へ申し入れ、土佐クラブ JA5YFM が非常通信を運用開始する。その後、行政当局から中断の命令により中止となる。

本川村の孤立惨状の連絡を取るため JA5RD 局が高知市筆山に登り開局して非常通信を続け、救援物資、医療品の手配、人名安否の問い合わせなど被害状況の報告をする。

8 月 20 日 18 時 45 分有線電話の回復まで非常通信が行われた。

一方越知地区の高北ハムグループは 19 日早朝 JA5KYI 局、JA5KYJ 局と交信ができ被害状況を越知町災害本部に通報。鎌井田地区の急病人救出には JA5RUM 局がヘリコプターの誘導を行い JA5QZV 局、JA5NUW 局、JA5OJY 局等との連絡により無事救出。

池川地区では崖崩で孤立した椿山、安居、狩山地区と連絡を取るため JA5OFT 局 JA5BIJ 局 JA5LBN 局 JA5OJY 局他 JA5YMX 局 33 クラブ員がバッテリー、TR-TX を担いで被災地へ運び、情報を送る。有線が回復まで孤立を防ぎ住民の安心を得る救援体制を続ける。

3 144MHz の威力

災害は広域的なものとなり、防災無線がありながら災害本部と連絡が取れず、アマチュア局の通信ルートで本川村から室戸岬経由で県庁へ連絡ができた。アマチュア局が日頃の通信の経験や移動中継局設置が実地の運用実績として発揮された。

行政当局から高く評価されることになるが、JA5BM 局はアマチュア局がこの教訓を生かし今後に備える気構えを伝えている。

昭和 50 年 12 月 JARL 四国だより第 8 号 JA5LD 局編集